

みみつ中央通信

子どもは素直だ。横断歩道を渡る時、赤信号では絶対に渡らない。そして、青になったら手を挙げて渡る。大人は、子どもの頃から心も体も成長しているにも関わらず、車が通っていきなく安全が確認できたらたとえ赤信号でも渡ってしまう人がいる。都会にいけば悲しいことに、そんな大人がいかにも多いことか・・・。

こんな話を聞いた。歳にして、四十を越えている立派な社会人Aの話だ。そのAがもう一人の社会人Bと二人で歩いていた。時間は、夜の二十三時を過ぎていた。車の通りもすつかり少なくなり、少し肌寒い夜だった。二人が横断歩道にさしかかった時、歩行者用の信号が青の点滅から赤に変わった。その時、Aは、車が通つておらず、安全を確認できたので、渡るうと足を踏み出した。その時Bの手がAの肩に掛かった。振り返りBの顔を見ると、顔を横に振り、Aに言った。

「やめようよ。俺たちこんなに(運が)ツイてる人生を歩いてるんだから、こんなことで運を使うのよそうよ。青に変わるまで待とうよ。」

Aは何も言えなかった。自分の心の狭さが情けなくなった。

三十年位前の話だ。ビートたけしさんが「赤信号、みんなで渡れば怖くない。」というギャグを有名にしてみました。今では、死語になってしまった漫才のネタだが、笑って済ませられることではない。赤信号は、車も歩行者も「止まれ」なのだから、渡つてはいけないのだ。赤信号で渡れたから運が良かったのではなく、運を使ってしまったことになるのだ。実にもったいないことだと思ふ。

車を運転している時、急いでいる時に限って赤信号になったり、前に遅い車が走っていたりする事が多いように感じる。そんな時、どうしてもイライラして焦つてしまふ。でも、考え方を変えてこれも何か意味があるんだと思う訓練を重ね、心を磨くことこそ、徳を積み運を引き寄せることになるのだと思ふ。

三浦綾子さんの『忘れえぬ言葉』(小学館文庫)という本に「感謝婦人」の話がある。こんな話だ。



校長 鈴木利明

赤信号では渡らない

北海道の旭川に感謝婦人という方がおられたそうで、何があっても、「ありがとうですよね。神様に感謝ですよ〜〜〜」といつも答えられていた。そんなおりに、旭川に二十日間も雨が降り続いたことがあった。そんな時、ある方が少し意地悪な気持ちから、この二十間の雨降りを感じ婦人は感謝するんだらうか? と思つてこう聞いた。

「こんなに雨が降り続いては困りますよね。感謝なんかできませんよね。」

「ありがたいことですよ。この雨が一日で降つたら、あちこちの川が氾濫して、多くの方が大変なことになるでしょう。」

ね。でも、神様は限りない優しさをもって、この雨を二十日間に分散してくださったんですよね。本当にありがたいことですよ。神様に感謝ですよ〜〜」

この話を二十年間の脊椎カリエスの激痛に苦しんでいた三浦綾子さんが聞いた。そして三浦綾子さんは、激しい痛みに襲われながらも

「ありがたいことですよ。いくじなしの私は、もしもこの二十年の痛みが一日で襲ってきたらきつと耐え切れなかつたし、生きることができなかつたでしょうね。でも神様は、限りない優しさと慈愛の思いでこの痛みを二十日間に分散してくださったんですよ。ありがたいことですよ。」と言われたそう。

私たちは、毎日のように普通に信号機を目にして当たり前のように過ごしている。もしも、信号機が無かつたらとか考えたこともない。信号機のお陰で、私たちは車から命を守り社会の中で安全に生活できている。このことに感謝しなければならぬのではないだろうか。

このように考えると、歩行者信号が赤で渡ることなど考えられない。だから赤信号を楽しめばいい。立ち止まって、深呼吸して周りの景色を見回すと新しい発見があるかも知れない。素敵な出会いがあるかも知れない。赤信号でイライラして心でネガティブなことを思うと気が付かない内に行動に出たり口に出たりする。心にゆとりをもって、感謝する習慣を身に付けよう。

今日は「感謝婦人」の話を十回読み返してみることにした。とても、清々しい気分になりそうな予感がするから。

美々津の歴史を学ぶ

講師：緒方博文さん（日知屋公民館） 6月21日



「ふるさと学習」を実施しました。美々津に住みながら、神武天皇の御船出の地というのは知っていても、美々津の知らない歴史の方が多い。だから、美々津を知ることによって、少しでも誇りを持てるようになると良いと思うばかりです。学習の中では、実際に見つかった土器を写真で紹介したり、街並保存地区の建造物や路地の話を聞いたり、ワクワクすることばかりでした。まだまだ、聴きたいことがたくさんありました。これからも、ふるさとを学習することで、ふるさとを大切にすることを育て、地域に協力する力も付けていきたいものです。

～私立高校説明会～

7月4日（校長室・保健室・図書室等）



【延岡学園】



【日章学園】



【鵬翔高校】



【聖心ウルスラ学園】



【宮崎日本大学】

私立高校説明会を全学年対象に実施しました。昨年度までは、2・3年生を対象に一斉で説明を聞いていましたが、今年度は、一つのグループに全学年が入るように5つに分け、高校も5つのブースを作って、それぞれのグループに説明をしていただきました。説明する高校は、同じ内容を生徒に5回話をしなければなりません、話しをする高校と聞く生徒側の距離も近く好評でした。生徒も会場が変わるので緊張感もあったようです。1年生にとっては、まだ先のように感じたかもしれませんが、早めに情報を入れておくことは、間違いなくプラスになります。時の流れは、もどってきません。戻ってこないから目の前のことを真剣に取り組むのです。

出前授業 (MFE HIMUKA) 7月2日



毎年、お世話になっている MFE HIMUKA（旧日向中島鉄工所）さんと、1年生を対象に出前授業を実施しました。工場見学のあと、島原社長から「君たちはどう生きるか」というテーマで講話をいただきました。その後、若手社員に働くことについての質問をしました。昼からは、ロケット製作です。設計図をもとにそれぞれのロケットを作ります。決められた時間内でグループが協力しながら進めました。

学校に求められる教育内容が、多種多様な時代になりました。特に、キャリア教育については、日向市も力を入れており、「日向の大人はみな子ども達の先生」というスローガンもあるほどです。そこで、本校では、校外から来校していただき講話を聴いたり、日向市内の事業所に行って体験学習を行っています。キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、継続的なプロセス（過程）と、働くことにまつわる「生き方」そのものの発達を促す教育です。世の中が新しくなったとしても、人としての大切な人間力だけは変わりません。だからこそ、トイレのスリッパを手で並べるとか音を立てないように歩くとか、素敵な挨拶をするとか、身近にあることを学び磨いていく必要があるのです。

校長：鈴木利明